

平成21年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472800349	事業の開始年月日	2001/1/1	
		指定年月日	2001/1/1	
法人名	有限会社 あかつき			
事業所名	グループホーム あかつき			
所在地	( 259-1306 ) 神奈川県秦野市戸川737-5			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月27日	評価結果 市町村受理日	未提出	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472800349&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472800349&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケ'双ファースト 3階		
訪問調査日	平成22年3月13日	評価機関 評価決定日	平成22年6月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームは「大家族」をイメージした理念をつくり、家庭的な雰囲気を大切にしたホーム作りを行なっています。企業の独身寮だった建物を使用していますが、あえてバリアフリーへの改築を施していません。居室もほとんどの利用者がフローリングの床に畳を敷き、布団で寝起きをしています。その他、階段の昇り降りや、ホーム内のあちこちにある段差が逆に利用者のADL(日常生活動作)維持に役立っています。

食堂兼リビングの壁には、切り絵、壁掛けなど秦野市主催の福祉フェスティバルに毎年出品している利用者の共同作品が飾られています。どれも手の込んだ見事な出来栄で、職員が利用者の力を引き出している様子が伺えます。

ここ(ホーム)で暮らすことが利用者にとっては拘束に当たると管理者は考えています。そのことを踏まえ「拘束はあってはならないこと」として全職員が意識し実践しています。帰宅願望のある利用者はいますが、日中玄関や窓などの施錠をすることなく利用者の自由な暮らしを支えています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	008
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム あかつき
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と理念を作り、実践している	「大家族」をイメージした理念を作り上げています。利用者の変化などによりホームの雰囲気も少しずつ変わってきますが、「大家族」の基本はいつも確認しています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り交流を図っている。	利用者が早朝行方不明になった時も、近所の方が保護、連絡を下さり大事には至りませんでした。昨年は新型インフルエンザの影響で実現しませんでした。例年もちつきや子どもたちと遊ぶなど地域交流に取り組んでいます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を行なっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて意見を取り入れている。	家族、地域包括支援センター、市職員の出席でホームの活動報告、意見交換など行っています。前回会議では外部評価を受けることを伝えています。全家族に毎回出席依頼をしています。	今年度は自治会長の都合もあり、出席が得られませんでした。来年度は定期的な開催や会議録をきちんと整備し、今後の活動やサービス向上に生かされることが期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡を取っている。	ホームを移転することが決まっています。それに関するアドバイスを受けています。マニュアル整備や職員の研修状況などについても意見やアドバイスを受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束をしないケアを行い、職員も理解している。</p>	<p>ここ（ホーム）に居ることが利用者にとっては拘束にあたるかと管理者は考えています。そのことを前提に、拘束は「絶対あってはならないこと」として全職員が理解しています。日中玄関、窓の施錠はありません。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止法を学ぶ機会を作っていないが、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度等の学ぶ機会を作っていないが、個々の必要性を話し合い、支援を行なっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族との連絡を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>出来ていない。</p>	<p>家族が面会の時や運営推進会議を利用して家族と話し合ったり意見を聞く機会を作っています。また、ホーム行事があった時に撮った写真と一筆を添えて家族に送り始めていますが、取り組みにはばらつき感があると思われれます。</p>	<p>取り組みには少しずつ前進が見られます。以前からの懸案であるホーム便りを作成し、家族への定期的な報告、意見抽出のため体制作りに取り組むことが期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ていない。	毎日の申し送りの時を中心に意見や提案を聞く時間を設けていますが、会議の定期的な開催までには至っていません。各マニュアル、書類等に関する整備が不十分な部分も見られ、職員の戸惑いが感じられます。	日々利用者との関わりから生まれる気づきや提案を職員全体で話し合える会議の定期的開催とケアを支えていくための各マニュアル、書類等の整備が期待されます。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きを把握し働きやすい環境を作る努力をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加出来るよう努力している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の集まりに参加し、又、相互研修を行なっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族又は本人から情報を聞き支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との交流を図って、関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を集め努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況に応じて、一緒に仕事をしたり、食事をしたりして、関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人を交えて話し合いをして、関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の情報を元に、馴染みの人の話をしたり、家族と話し合い、何時でも面会出来る支援を行なっている。	基本的に面会はどなたでも自由ですが、一部の利用者とのトラブル回避のために面会人を若干制限する場合があります。毎年、お正月はホームの車で神社へ初詣に出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状況を把握し、席の配置などを配慮し、支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡を取り、協力したりされたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	配慮しているが、困難な場合は家族と話し合い支援している。	利用者の家族との会話の中から編み物が好きと言う情報が得られ、毎年参加している福祉フェスティバルの出展品のために毛糸で果物を編んでもらいました。結果、見事なフルーツバスケットの壁掛けが出来上がったという事例があります。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を聞き出す努力をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を把握し努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見等を聴きプランを作成している。	介護計画作成時、職員に必要と思われる支援内容（まとめ）用紙に気づいた事を記入してもらい計画に反映させています。会議もその時に出勤している職員が加わって行っていますが、不十分な感は否めません。	ホームでの利用者の生活を支えていく介護計画の重要性を考え、チームで作る計画作成とモニタリングについて確認、検討されることが期待されます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳などで情報を共有し生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々で支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携し、支援している。	協力医療機関へ受診しています。入居前からのかかりつけ医への受診も家族対応で行われています。	現在往診を打診しています。定期的な往診による受診支援開始を期待します。歯科や看護師との協働関係構築も検討されることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	情報交換を行なっている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	家族との話し合いや本人の状況を把握し支援している。終末ケアは行っていない。	入居の際、ホームでできることの範囲の説明を行い、理解を得ています。家族は重度化した場合のために入居の時点で特別養護老人ホームへの入居希望も提出しています。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	訓練が出来ていない。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	自治会が定める避難場所がある。	計画的、定期的な訓練実施までには至っていません。共用空間の物品の転倒防止策も不十分と思われます。3日分程度の水、食料の備蓄は確保しています。	災害及び災害対策に対する意識と心構えの再確認と訓練実施、マニュアルの整備などに取り組むことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った対応をしている。	職員に利用者（年長者）への尊敬の念、言葉遣い、優しい態度が伺われます。このことは、職員の朝のミーティングの中で共通認識として周知され、また新人には入職時にホームの理念、方針、個々の利用者の特性等が管理者から話しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々が自己決定出来るよう努めている。	/	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせて支援を努めている。	/	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせて自己決定してもらい支援している。	/	/
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の要望を聞いたり、下膳、後片付けを手伝っていただいたりと支援を行なっている。	メニューは、その日に利用者の希望、家庭菜園の野菜などを取り入れ、職員で相談して決めます。また食事制限のある人には刻み食、薄味等に配慮し調理しています。誕生日には出前、お正月、お節句には行事食など変化をつけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>家庭的な料理で栄養摂取し、食事やおやつ時間に水分補給を行なっている、又本人の要望があったり、個々の状況に応じて水分補給を行なっている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後に行なっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個々の状況に応じて行なっている。</p>	<p>利用者には自立した人が多く、その人達には、散歩などを通じ体力、排泄の自立の維持を、介助が必要な人には、チェック表で排泄時間を把握し、さりげなく声かけを行っています。失敗の時は、下着の取替えなどさりげなく介助しています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々に応じて主治医の指示に従い下剤を服用している。又食物繊維を取り入れた食事を提供したり、水分補給を行なったりして予防している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間や曜日は決まっているが、自己決定を尊重し支援している。</p>	<p>入浴は、週3回、入浴前に健康状態を確かめて、声をかけ、入浴に誘います。状態によりシャワー浴、静養があります。拒否の方には、時間や職員を代えて誘います。季節を感じさせるしょうぶ湯、柚子湯、はっさく、だいたい湯を楽しんでいます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理や個々の余暇に応じて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬を把握し、支援している。(主治医の指示にて)		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や娯楽、個々に出来ることを把握し、支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブをしたり、時には季節にあった支援を行なっている。	近隣の公園への散歩やショッピングに出かけています。時に車で戸川公園や梅、桜見物など出かけています。帰りにお店でお茶なども楽しんでいます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や個々で作ったものを展示したり、季節に合った草花を飾ったりしている。	リビングは、テーブル3卓、椅子12脚と利用者がゆっくり過ごせる広さです。壁には押し絵や壁掛けなど利用者の作品が飾られています。玄関脇のソファのコーナーは日当たりが良く、利用者のおしゃべりの場になっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所で過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて行なっている。	入り口に表札が掛けられ、広さは10畳、利用者の好みでフローリング、畳敷きに対応しています。レースのカーテンがかかり、馴染んだ小タンス、TV、お人形、鏡台など家庭的な雰囲気があります。また、家具など置かない部屋作りなど、最大限に利用者の好みを尊重しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			